

令和6年度 全国保健所長会
社会医学系専門医指導医研修会（北海道ブロック）

「社会医学系専攻医の経験 と指導医に期待すること」



研修医から見た指導医の役割

ブロック別指導医講習会の実施報告！

令和6年8月5日、北海道ブロック保健所長会総会、保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会（北海道ブロック）」が開催されました。

座長・記録：石井 安彦 北海道釧路保健所長

今回は現地開催で、参加者数は連携推進会議29名、指導医講習会14名でした。

今回の指導医講習会は「若手から学ぶ」をテーマに企画し、札幌市保健所感染症総合対策課 古澤弥先生と岩見沢保健所田口将人先生からお二人の経験含めてお話しいただきました。

まず、古澤先生から「社会医学系専攻医の経験と指導医に期待すること」のテーマでご講演いただきました。古澤先生は平成23年に北海道大学を卒業、初期臨床研修を経て小児科医として大学病院や道内の病院で研鑽を積み、平成28年に札幌市に入職されています。西日本豪雨災害でのDHEAT派遣やCOVID-19対応では札幌市保健所の感染症対策担当として活躍された札幌市保健所のホープです。講演ではまず、札幌市の行政医師の配置状況や業務内容の紹介をしていただきました。札幌市の産業医も務められていて、円山動物園や消防局を担当されていたとのことで、なかなか見ることでできない現場の様子も教えていただきました。

講師

【札幌市保健所】

結核・感染症
医事担当課長

古澤 弥 先生



【北海道岩見沢保健所】

医師

田口 将人 先生



社会医学系専門医に関する

◆◆ お知らせ ◆◆

COVID-19のパンデミック期間中に運用されてきた副分野措置について、専門研修として必要な知識、経験を積むことを条件に、引き続き、以下のように副分野の研修として取り扱うことが恒久化されました(2024年4月～)。大学、学会等における研修会、日本医師会の産業医研修会などに加えて、現場の感染症対応についても内容により副分野の研修として認められます。専攻医の指導の参考にしてください。詳細は社会医学系専門医協会HP <http://shakai-senmon-i.umin.jp/>でご確認ください。

そして、社会医学系専門医研修の仕組みからご自身の経験、公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業ケーススタディ集についてお話しいただきました。具体的には、ご自身の経験から指導医に期待することとして、初期研修や臨床医から行政に入職後に感じる様々なギャップへのフォローを行うこと、専攻医の担当外の業務も積極的に経験できるように配慮すること、研修の到達度などについて適宜のフィードバックを行うことなどを挙げられました。意外に思ったのが、指導医の成功談、失敗談や武勇伝を伝承して欲しいという内容で、年寄りの昔話は若者に敬遠されるものと思い込んでいましたが、伝えるべき内容を端的に伝えることはニーズが高いのかもしれません。また、卒後6年目と若くして行政に入った立場で感じたことなど、若手の専攻医が悩むポイントについても経験者の立場から触れていただき、今後の専攻医の指導に活かせる実践的なお話しでした。特に印象に残った内容として、医師と一般住民とのギャップの話で、医学部に入った時点から医師になって経験を積むにつれてそのギャップが大きくなることを意識することが必要ではとのコメントには思わずハッとさせられました。ナイスミドルを目指したいと仰っていた古澤先生のお話を受講者一同、すっかり魅了されていました。

次に、田口先生から「研修医から見た指導医の役割」のテーマでご講演いただきました。田口先生は社会人を経験されてから令和4年に旭川医科大学を卒業、東京の病院での初期臨床研修を経て令和6年に北海道に入職されています。講演では、初期臨床研修を修了した直後の立場から、最近の初期研修の状況や、初期研修医から見た指導医の役割についてお話しいただきました。

初期研修医が1年目の4月から最前線で診療業務に関わるため、現場ですぐに使える知識・技能が必要になること、指導医は研修医の実施する医療行為を把握して「見守る」環境を作ることが必要とまとめていただきました。病院によっても違うのですが、最近の初期臨床研修でも1年目から自分で何とかしなければいけない場面が多く、実践的な研修期間になっていると感じました。そのような環境で初期研修を経験された先生方が社会医学系専門医の専攻医となったときに、「物足りなさ」を感じさせないような様々な経験を積めるような環境を整えることが必要だと思いました。実践の場面を用意して指導医が見守ることは社会医学系専門医研修にも共通するポイントですね。田口先生のお話で素晴らしいと思ったポイントが、医師国家試験を例にゴールを設定してそのためにどのような方法でそこにたどり着くのかを考えるという例から、初期臨床研修の説明をされている部分でした。北海道の指導医の殆どが現在の初期臨床研修を経験していないため、とても分かりやすく説明していただけて良く理解できたように思います。プレゼンテーションの構成もお見事で、冒頭に結論として「指導医の役割とは、指導を受ける側のニーズと診療能力を把握しながら到達目標と到達するための方法論・経験等を明確に示し、道から外れないように見守り、時々手助けすること。」と簡潔に明示していただき、その結論に至る背景をご自身の経験も含めて丁寧に説明されていました。今後の専門医研修でも様々な経験をしたと力強く語っていただきましたので、これからの益々のご活躍を期待したいです。

若手医師2名からの熱のこもったお話しで参加者も熱心に聴講していて、とても良い勉強になりました。平均年齢の高い受講者相手準備も大変だったと思いますが、古澤先生、田口先生、貴重なお話をどうもありがとうございました。

ご報告を頂いた石井安彦北海道釧路保健所長、講師を務めていただいた古澤先生、田口先生ありがとうございました。次回は東北ブロックの様子をお伝えいたします。引き続きよろしくお願いいたします。

発行責任者：横山勝教（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）